

1. 平成18営業年度事業計画の基本方針

名神高速道路が誕生してから約40年、国民生活の基盤となるハイウェイネットワークの構築は、日本道路公団が整備主体となり、進められてきました。

その後、平成13年12月19日に閣議決定された「特殊法人等整理合理化計画」の趣旨のもと、平成16年6月9日に公布された「道路関係四公団民営化関係四法」により、日本道路公団の分割・民営化が実施され、平成17年10月1日、西日本高速道路株式会社が発足しました。

民営化の目的は、真に必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担の下で建設すること、民間ノウハウ発揮により、多様で弾力的な料金設定やサービスを提供すること、そして有利子債務を確実に返済すること、これらの3点です。

弊社は、日本道路公団がこれまで果たしてきた役割や機能を承継するとともに、高速道路サービスをより充実することで、地域社会の発展を担う「地域から愛され、お客様に喜ばれる西日本高速道路株式会社」を目指してまいります。

平成18営業年度は、日本道路公団から西日本高速道路株式会社となり、会社の自主性を尊重した高速道路事業が本格的にスタートする年度となります。本営業年度を「飛躍のための基盤づくり初年」と位置付け、目的を達成するために自分たちの使命を認識し全社員一丸となって取り組んでまいります。

平成18営業年度の事業計画の基本方針は次のとおりです。

➤ 地域から愛され、お客様に喜ばれる会社づくり

- ・経営努力により得られた利益について、お客様サービスの向上のための施策に還元します。
- ・「CS推進本部」を設置し、会社及びパートナー（子会社）会社の従業員一人ひとりが「CS推進」の必要性について理解を深めつつ、グループ全体でCSを推進できる諸方策について推し進めます。

➤ 高速道路による、地域を支える社会資本づくり

- ・「第二回国土開発幹線自動車道建設会議」の議論を踏まえ、会社として計画的で効率的な建設計画を策定し、事業を実施します。
- ・お客様に満足いただける安全、安心な高速道路を提供するとともに、維持管理業務についてパートナー（子会社）化による執行体制を構築することにより、一層の効率化に向けた基盤づくりの初年度とします。
- ・サービスエリア・パーキングエリア（以下SA・PAという。）事業について高速道路の休憩所、給油所等の運営管理を行う西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)と一体となり、安定した経営基盤づくりと新たな企業価値を創造し、大きく発展するための事業を推進します。

➤ **企業価値を高め、経営体質強化への基盤づくり**

- ・内部統制システムの構築の一環として、リスク管理体制を構築します。
- ・IT化を推進することなどにより、業務の効率化や意思決定の迅速化を目指します。
- ・お客様及び社会の皆様との信頼関係を一層ゆるぎないものにするために、全社的な情報セキュリティへの取り組みを進めます。
- ・財務体質強化並びに投資家等のステークホルダーからの信頼性向上のため、より一層のコスト削減とディスクロージャーに取り組めます。
- ・工事等の入札及び契約にあたっては一層の競争性、公正性、透明性の確保に努めるとともに、コスト削減を図ります。
- ・社員一人一人が「コンプライアンス」について理解を深め、会社に定着していくための諸方を推進します。

➤ **働く喜びを感じ、誇りの持てる企業風土づくり**

- ・経営戦略と個人目標とのPDCAサイクルを確立するために、目標管理制度、業績評価制度を試行導入するとともに、「やる気を引き出し」「やれば報われる」新たな人事制度を順次構築していきます。

➤ **共同で収益を生み、協調できるパートナーづくり**

- ・安全性・信頼性に直結する維持管理業務については、パートナー（子会社）化によりコスト管理、技術・サービスの向上を図り、事業執行にかかるノウハウの集約と経営の効率性を追求します。